



# 子どもの斜視 について知ろう

大阪母子医療センター眼科 副部長 遠藤 高生

企画：  
日本医師会

No. 600

## 斜視とは

右眼と左眼の視線が違う場所に向かって  
いる状態、すなわち眼位のずれのことを斜視  
と言います。ずれの方向によって、内斜視、  
外斜視、上下斜視などに分けられます(図)。

斜視による問題点は、主に見た目(整容性)  
と、視力・両眼視機能です。常にずれている  
斜視(恒常性の斜視)で、片眼ばかり使ってい  
ると、使っていない方の眼の視力が伸びず、  
斜視弱視となってしまいます。

両眼視機能とは、左右の眼で見ているもの  
を組み合わせる両眼で見る能力で、立体感  
や距離感を感じたりしますが、恒常性の斜視  
があるとその発達が障害されます。

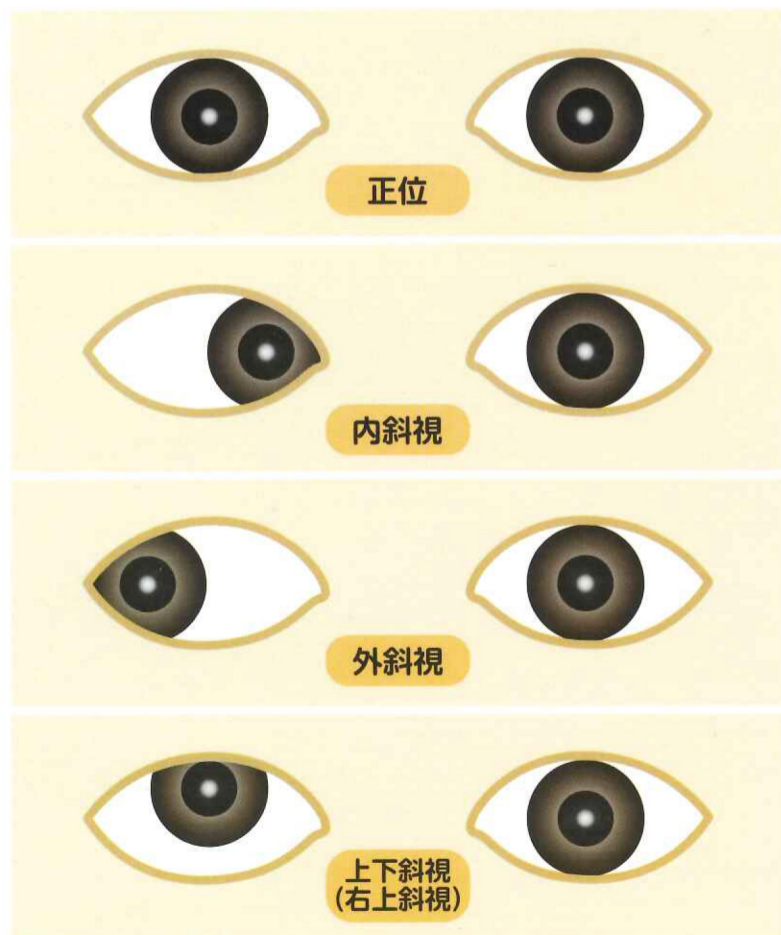


図 斜視

## 斜視の治療

遠視や乱視など屈折異常があれば、まず  
は眼鏡を使います。斜視弱視があれば健眼遮  
閉(アイパッチ)治療\*1を行います。調節性内斜  
視\*2のように眼鏡を掛けるだけで斜視が改善  
するものもありますが、一定以上の斜視が残  
るようであれば、斜視を手術で治療します。

\*1: 使っている方の眼(健眼)を一時的に隠し、  
使っていない方の眼を強制的に使わせて視力を伸ばす治療。  
\*2: 強い遠視が原因で、過度に調節を行うことにより  
内斜視が生じてしまうもの。



## おかしいな?と思ったら

大きな角度の斜視があれば明らかですが、  
角度が小さいケースや、普段はほとんどずれ  
ない場合もあり、斜視の有無を確認するこ  
とは簡単ではありません。斜視の中には先天  
白内障や網膜芽細胞腫<sup>もうまくがさいぼうしゅ</sup>など治療を急ぐ必要が  
ある病気が隠れていることもありますので、  
お子さんの眼を見て何かおかしいなと思っ  
たら、眼科医の診察を受けるようにしまし  
ょう。

また、1歳6か月児健診や3歳児健診では  
斜視や弱視が見つかることが多くありま  
す。ともに治療までのタイムリミットが  
ある病気なので、健診は必ず受けてくだ  
さい。

